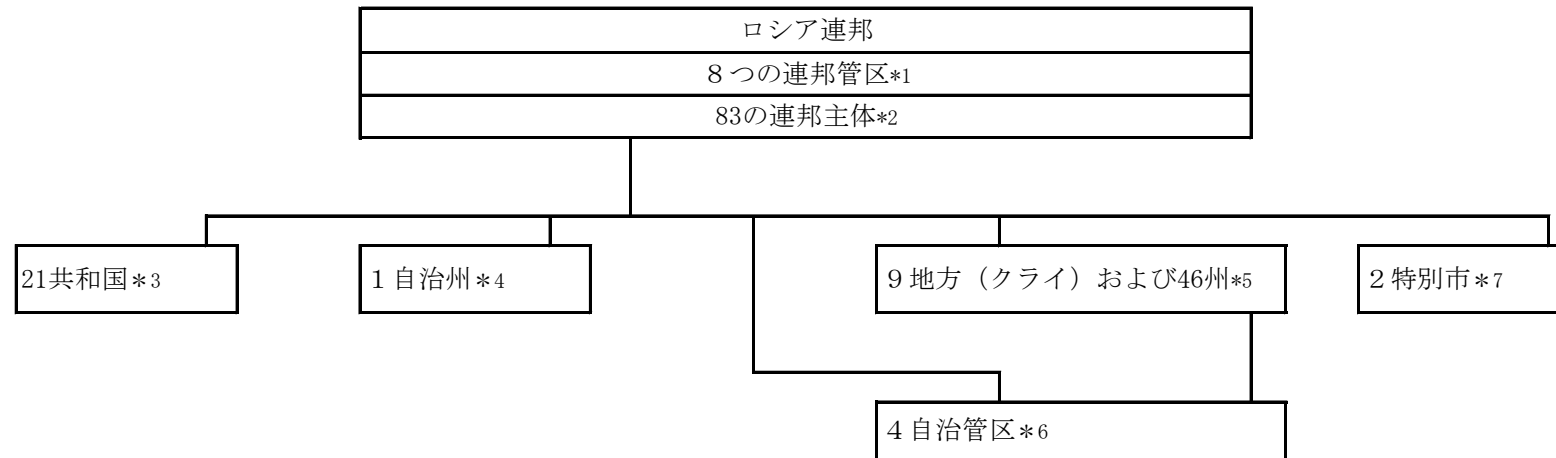


## ロシア連邦の構造



\* 1 2000年にこの制度が発足したときは、中央部、北西部、南部、沿ヴォルガ、ウラル、シベリア、極東の7つだったが、2010年1月、南部管区から北カフカース管区が分離することになり、8管区となった。

\* 2 1993年憲法制定時の連邦主体数は89だったが、その後、自治管区の減少（\* 6 参照）に伴い、連邦主体総数も減ってきた（さらに減少するのではないかという観測もあるが、当面は一段落している）。

\* 3, \* 4 ソ連時代末期には16自治共和国と5自治州があったが、そのうちの自治共和国全部と4自治州が1991年に「共和国」と改称して20共和国と1自治州（ユダヤ自治州）となった。その後、1992年にチェチェンとイングーシが分離して21共和国となった。

\* 5 ソ連時代末期には6地方と49州で、それが当初のロシア連邦に引き継がれた。その後、ペルミ州がコミ・ペルミヤーク自治管区を吸収する際にペルミ地方に再編され、カムチャッカ州がコリヤーク自治管区を吸収する際にカムチャッカ地方に再編され、チタ州がアギンスキー・ブリヤート自治管区を吸収する際にからザバイカル地方に転化した（注6参照）ので、地方が3つ増え、州が3つ減った。

\* 6 自治管区は地方（クライ）ないし州に包摂されると同時にロシア連邦の主体でもあるという変則的な位置にある。ロシア連邦発足時には10の自治管区があったが、2004年から08年にかけて、自治管区が地方ないし州に統合されて数が減少してきた（コミ・ペルミヤーク、タイムイル、エヴェンキ、コリヤーク、ウストオルダ・ブリヤート、アギンスキー・ブリヤートの各自治管区が廃止された）。

\* 7 ロシア連邦の直接構成主体とされるモスクワ市とサンクトペテルブルグ市（「特別市」という言い方は正式のものではなく、分かりやすくするための便宜的なもの）。